

改めて、皆様、東京学芸大学初等教員養成課程学校教育選修へのご入学、おめでとうございます*）。

学校教育教室を代表して、今年度教室主任として私、篠原が、ひとこと、ご挨拶を申し上げます。

去る4日にはやや風があったものの暖かな晴れの中で「入学式」、昨日、一昨日と、特に昨日は一転して爆弾低気圧というのだそうですが、強い風雨の中、健康診断や学生証の受領、そして、パソコンの講習会も、特に本学生協でパソコンをご購入された方には、ありました。

今日は、まずまずの天気です。

・・・いよいよ今日、「オリエンテーション」が始まり、各種手続き、この後は、カリキュラムの解説があります。

明日は、履修相談会があります。ここにいらっしゃるお二人の先生方、教育課程がご専門の平野先生、大学入試と受験体制のご専門の腰越先生、そして、皆様の先輩が、どうすれば効果的に、有意義に学生生活を送ることができるか、丁寧に皆さんの疑問に答えてくれることになって、います。

そうして、来週14日、月曜日から、授業が始まります。

つまり、一週間、「オリエンテーション」が終わって、授業ということになります。

ところで、「オリエンテーション」で、何でしょう？……………

「ディスオリエンテーション」、というコトバが、私の専門である「マルチメディア」「インターネット」などの教育活用の分野に、あります。

皆様の多くの方は18歳であるかと思えます。

昨夜、計算しましたらば、17歳が去年、15歳が3年前の平成17年・・・、そして、平成9年に、小学校に上がっていることになります。

平成元年つまり1989年に「新しい学力観」として、「考える力」「判断する力」「表現する力」が打ち出され、自分で「考え、判断し、表現する」ことに教育の重点が移されました。これを、「教育のパラダイムシフト」と呼んでいます。

そして、平成10年に、この結実として「生きる力」と銘打った指導要領が発表されて、平成12年から実施されました・・・。

このあたりは、実は、先ほど申し上げたように、ここにいらっしゃる平野先生のご専門ですので、このあたりで……………。

さて、実は、この「オリエンテーション」とは、迷子にならないように、あらかじめ、皆様を導いておこう、手順を示しておこうということです。間違えないように……………皆さんが「大きなケガ」などしないよ

うにとの、事前の指導です。

そこで、「ディスオリエンテーション」とは、「迷子にならない」「させない」ではなく、「迷子を作る教育」、あるいは、「迷子をもものとしめない」、たとえば教育、生き方、です。

自分で考えることは、迷子になることです。
大いに迷子になって欲しいと思っています。

基礎・基本がしっかりしていて、その上、周りの空気を読んで経験を生かして、判断などしていけば、それほど大きな誤りは、恐れるに足らず。自分で道を見つけていくことができ、つまり、判断し、ほかのヒトにも、自分の言葉で説明などできるようになるはずです。

皆さんは、小学校4年生のときから、こうした生き方を、学習の仕方に沿った教育を受けてきています。

大学においても、いっそう社会の基礎・基本も含め、教育学に関わる基礎・基本をしっかり身につけて、迷子になって、自らを律し成長させることを、願っています……。

最近読んだ書物に、ある企業の社長が社員に対してお話した、次のような挨拶がありました。

世の中には、3人のバカがいるといいます。

タネをまかぬバカ、翌日刈り取ろうとするバカ、思い切ったことのできぬバカ、の3人です。

同じく、

運動も学問研究も、いずれも無定量、無際限の努力を要求するものです。この2本立ては、神経や肉体をぼろぼろにさせずに、おきません。

しかし、この期間は、人間を人間としてよみがえらせ、より大きく育てる期間となります、と。

学校教育教室の9名の先生方は、そうしたあなた方を支援していきます。

ご活躍を祈念して、ご挨拶いたします。

ご清聴、ありがとうございます。

*) 平成20年4月9日午後1時、
新1年生オリエンテーションにおける挨拶